

日本原子力学会炉物理部会第 47 回全体会議 議事次第

日時：平成 29 年 9 月 14 日（木）12:00-13:00

場所：日本原子力学会 2017 年秋の大会 G 会場（北海道大学工学部 C 棟 C213 講義室）

< 部会賞表彰式 >

1. 平成 29 年度炉物理部会賞授与式

< 審議事項 >

2. 平成 28 年度決算について（財務小委員会担当幹事）（資料 47-1）
3. 平成 30 年度予算案について（財務小委員会担当幹事）（資料 47-2）
4. 平成 30 年春の年会での企画セッションについて（学术交流小委員会担当幹事）（資料 47-3）

< 報告事項 >

5. 第 49 回炉物理夏期セミナー、若手研究会開催報告（セミナー小委員会担当幹事他）（資料 47-4）
6. Reactor Physics Asia 2017 開催報告（資料 47-3, 5）
7. 第 9 回日韓四部会合同サマースクール開催報告（資料 47-3）
8. その他 第 5 回炉物理専門研究会の開催案内（京大炉・卞 哲浩氏）（資料 47-6）

< その他 >

以上

平成29年度 炉物理部会予算案

科目	H29年度 予算案	H29年度 実績(8/30時点)	備考
----	--------------	---------------------	----

[1] 通常予算

(単位 円)

収 入	前年度予算繰越金 [A]	5,531,009	5,526,354	本部回収額支出として4,655円を繰越時に支出
	本部配布金	247,000	247,000	平成29年7月実績
	掲載料	0	0	
	テキスト売上	0	0	
	セミナー残金	0	181,698	セミナー担当幹事 阪大竹田先生より8/28連絡の暫定値
	その他	0	0	
当期収入合計 [B]		247,000	428,698	

支 出	会議費	0	0	
	旅費交通費	880,000	930,000	①炉物理ロードマップ調査・検討WG(予算40万円) 実績:幹事会2・全体会合各2回のべ12人に315,326円補助。 ②学生・講師の旅費補助(予算48万円・1人80,000円上限) ・4部会合同日韓サマースクール(8月,韓国大田):講師1名&学生2名に補助。概算10.4万円の予定であったが、台風影響による日程変更で約5万円の特別損失が出る見込み。 ・RPHA2017(8月,中国成都)に学生6名に補助。概算46万円。 ※詳細は別紙参照
	通信運搬費	4,000	360	本部との連絡費等。平成29年7月までの実績。
	消耗品費	5,000	0	消耗品費 0.5万円
	一般外注経費	0	0	
	諸謝金	0	0	
	負担金	0	0	
	助成金	0	0	
	通常予算補助金	0	0	
	管理費配賦額	0	0	
その他	20,000	10,000	炉物理部会奨励賞(5000円×2名)、同貢献賞(5000円×2名)の予算に対し、奨励賞2名、貢献賞該当なし	
当期支出合計 [C]		909,000	940,360	

通常予算収支 [D]=[B]-[C]	-662,000	-511,662	旅費支給で特別損失が出るものの、主にセミナー運営の成功で当初予算より収支が改善する見込み。
--------------------	----------	----------	---

翌年度繰越金 [E]=[A]+[D]	4,869,009	5,014,692
--------------------	-----------	-----------

[1] 平成 29 年度予算実績のうち旅費交通費について

① 炉物理ロードマップ調査・検討 WG への旅費支給(予算額 40 万円:事業終了)

4 月 25 日開催 第 2 回幹事会	48,672 円	
5 月 23 日開催 第 3 回全体会合	103,508 円	
7 月 24 日開催 第 3 回幹事会	43,088 円	
8 月 7 日開催 第 4 回全体会合	120,058 円	
支出合計	315,326 円 (残額 84,674 円)<1>

② 学生・講師の旅費補助(48 万円:事業終了(精算中))※1 人あたり 8 万円を上限として支給

旅費補助を受けて発表を行う学生は発表資料に部会からの支援がある旨のクレジットを記載することを依頼

(1) 4 部会合同日韓サマースクール(韓国・大田)への講師 1 名、東工大学生 2 名の派遣

講師 1 名: 旅費・宿泊費で約 65,000 円程度を部会予算から支給(当初額*)<2>
但し、台風 5 号の影響により国内交通機関の乱れによる予定変更があり、 新たな航空券と宿泊費の取得費用が発生(部会長承認済み、約 50,000 円)<2>

学生 2 名: 旅費(学生は宿泊費かからない)のみ約 38,000 円×2 名のところ、一人 20,000 円は本部からの補助が充当され、残額の約 18,000 円×2 名を部会予算から支給予定。.....<3>

(2) 日中韓炉物理会議(RPHA2017)(中国・成都)への学生 6 名の派遣

当初計画では 5 名に対し旅費+参加費の補助、2 名は参加費のみの補助予定であったが、参加費のみ支給予定の 1 名から辞退者が出たため、上記①の残金も充当して全員に旅費+参加費補助とすることに変更。上限 8 万円としたが、実申請は一人当たり 7.7 万円を想定。

6 名(北大 2、東北大 1、東工大 1、阪大 1、京大 1) 約 7.7 万円×6 ≈ 460,000 円<4>

全体収支(見込み)

<1> + <2> + <2*> + <3> + <4> = 約 930,000 円(当初予算に対し約 50,000 円の予算超過)

[2] 平成 30 年度予算における日中韓炉物理会議(RPHA2019)日本開催に関する準備資金計上について

平成 31 年度には上記会合が日本で開催される予定であり、会場費や運営会社への手付金等が、参加費・広告費の徴収前に必要となるため、PHYSOR2014 日本開催時を参考として、90 万円を部会予算から一時拠出する予定である。

平成29年度 炉物理部会予算案

科 目	H30年度 予算案	備 考
-----	--------------	-----

[1] 通常予算

(単位 円)

収 入	前年度予算繰越金 [A]	5,014,692	
	本部配布金	247,000	平成29年7月実績に基づく
	掲載料	0	
	テキスト売上	0	
	セミナー残金	0	セミナー収支は±0として計算
	その他	0	
	当期収入合計 [B]	247,000	

支 出	会議費	0	
	旅費交通費	240,000	①学生・講師の旅費補助24万円。以下の旅費補助を想定： ・PHYSOR2018(4月,メキシコ)に3名参加(支給上限8万円)を想定 ※イベントが増えてきており、単年度ではなく複数年度で想定する必要がある
	通信運搬費	4,000	
	消耗品費	5,000	消耗品費 0.5万円
	一般外注経費	0	
	諸謝金	0	
	負担金	0	
	助成金	0	
	通常予算補助金	0	
	管理費配賦額	0	
	その他	920,000	・炉物理部会奨励賞(5000円×2名)、同貢献賞(5000円×2名) ・RPHA2019開催準備のための拠出金として90万円を想定
	当期支出合計 [C]	1,169,000	

通常予算収支 [D]=[B]-[C]	-922,000
--------------------	----------

翌年度繰越金 [E]=[A]+[D]	4,092,692
--------------------	-----------

資料 47-3

平成 29 年春の年会での企画セッションと RPHA2017 及び日韓四部会合同サマースクールの報告について

学術研究交流小委員会担当幹事
岩元 大樹、小野道隆、卞 哲浩

日本原子力学会 第 47 回炉物理部会全体会議
平成 29 年 9 月 14 日

報告事項

- 1) 2018 年春の年会での部会企画セッションについて
- 2) 第 2 回「日中韓炉物理 WS : RPHA2017」の報告
- 3) 第 9 回日韓四部会 (加速器・ビーム科学、核データ、放射線工学、炉物理) 合同サマースクールの報告

平成 29 年度春の年会での部会企画セッションについて

1. 今後の企画セッションの方針について

表 1 に示す近年の炉物理部会の企画セッションのテーマを見ると、近年はノンテクニカルな内容に偏っているように見えるとの指摘があった。企画の内容の偏りを無くすため、春の年会ではテクニカルな内容とし、秋の大会ではノンテクニカルな内容にするなど、春と秋で大まかな方向性を分けることで、企画セッションのテーマを決めやすくなることが期待できる。上記の考えについて、部会員の方々のご意見を承りたい。

2. 部会企画セッション案

8 月上旬より、部会メーリングリストにて企画セッションのテーマ案を募集したところ、以下のようなテーマ案が提案された。

<ノンテクニカルな企画案>

- (1) 炉物理ロードマップに基づくアクションプラン
- (2) 炉物理を学ぶ人の人材像
- (3) 大学における炉物理教育のあり方と組織間連携

<テクニカルな企画案>

- (4) 炉物理の未解決問題
- (5) V&V の理論と実践
- (6) 不確かさ評価

春の年会の企画セッションでは、上記のテーマ案の中から総会参加者の意見を鑑みて決めたいと考えている。

表 1 近年の炉物理部会及び核データ部会の企画セッションテーマ一覧【参考】

		炉物理部会	核データ部会
2005	秋	J-PARCにおける核変換実験施設実現への取り組み	〃
		核データ・炉物理研究と社会の係わり	〃
2006	春	企画セッション無し	これからの放射線医療と原子分子・原子核データの応用 核データを巡る情勢
	秋	分離変換技術の実現にみけて炉物理・核データは如何に寄与できるか	〃
2007	春	OECD/NEA/核データ評価国際協力ワーキングパーティ(WPEC)における活動	〃
	秋	高速炉とADSRの開発における鉛ビスマス利用技術の現状と将来展望	企画セッション無し
2008	春	J-PARC核変換実験施設の現状と展望	我が国の核データ活動を展望する
	秋	企画セッション無し	核データ研究の更なる発展に向けて 一核反応理論の最前線と核データへの要求
2009	春	2009 KNS-AESJ Joint session of Reactor Physics and Nuclear Data	〃
	秋	新検査制度導入と炉心設計	核融合炉関連核データの現状と将来展望
2010	春	炉物理実験施設の現状と課題、そして今後	核データ評価における品質保証とJENDLの利用状況
	秋	アクチノイドの炉物理と核データ	JENDL-4の完成と今後の展望
2011	春	軽水炉・高速炉におけるトリウム燃料の利用	核データ分野の将来展望:大規模計算による核データ生産と普及活動
	秋	福島原子力発電事故と炉物理の将来	福島第一原子力発電所事故と核データの将来:原点へもどって
2012	春	炉物理分野の研究開発の展望	シグマ特別専門委員会活動報告と核データ研究の展望
	秋	炉物理・核データの将来にむけて	評価済核構造データファイルENSDFとその応用
2013	春	AESJ-KNS Joint Workshop on Reactor Physics and Nuclear Data	シグマ委員会設立50周年をむかえて
	秋	炉物理・遮蔽分野における安全解析コード開発戦略 燃料デブリ取出に向けた臨界安全における課題	〃
2014	春	熱中性子散乱則データのこれまでとこれから	〃
	秋	炉物理分野の人材育成の現状と今後の課題	核データ分野における大型研究開発プロジェクトの現状と展望
2015	春	研究炉や臨界実験装置の将来計画と今後のあり方	〃
	秋	炉物理・核データ分野の若手からのチャレンジ・提言	〃
2016	春	国産コードシステム開発の動向と今後の展望	ミュオン物質内輸送とその学際的応用
	秋	原子炉・加速器施設の廃止措置と放射化核データライブラリの現状	〃
2017	春	ベンチマーク問題や積分実験を用いたJENDL及び 核計算コードのV&Vの現状と今後の展望	〃
	秋	原子炉物理分野の研究・開発ロードマップの更新	「シグマ」特別専門委員会の平成27、28年度活動報告

※核データ部会の欄の「〃」は、炉物理・核データの合同セッションを意味する。

※2011年春の年会は東日本大震災の影響で未開催のため、企画セッションも未実施

第 2 回「日中韓炉物理 WS : RPHA2017」の報告

1. Reactor Physics Asia 2017 (RPHA2017) Conference

日時：2017 年 8 月 24 日（木）～ 8 月 25 日（金）

場所：中国・成都

参加人数（学生を含む）：162 名（中国 101 名、日本 16 名、韓国 45 名）

学生発表数：64 編（中国 26 編、日本 10 編、韓国 28 編）

発表総数：119 編（中国 73 編、日本 11 編、韓国 35 編）

2. 部会旅費補助（学生対象）

学生 6 名に RPHA2017 への旅費が支給された。

北海道大学工学院 学部 4 年 二平舜介 君

北海道大学工学院 学部 4 年 片桐耕司 君

東北大学大学院 修士課程 2 年 前田大輝 君

東京工業大学大学院 博士課程 1 年 桑垣一紀 君

京都大学大学院 博士課程 4 年 李 在洪 君

大阪大学大学院 修士課程 2 年 小林千将 君

3. 会議表彰

日本から以下の 2 名が Student Paper Awards の表彰を受けた。

京都大学原子炉実験所 研究員 山中正朗 氏

北海道大学大学院 学部 4 年 二平舜介 君

4. 次回、Reactor Physics Asia 2019 (RPHA2019) Conference が以下の要領で開催されることが発表された。

日時：2019 年 12 月 2 日（月）～ 12 月 3 日（火）

場所：大阪

主催：日本原子力学会 炉物理部会、韓国原子力学会 炉物理・計算科学部会、
中国原子力学会・炉物理部会

後援：近畿大学原子力研究所、京都大学原子炉実験所

以 上

2017 年 9 月 14 日（木）
学術小委員会担当幹事
京都大学原子炉実験所
卞 哲浩

2017 年 8 月 21 日

第 9 回日韓四部会合同サマースクール報告

(2017 年 8 月 7-10 日、韓国大田広域市 KAIST/KAERI)

石橋健二(九大)

四部会委員：大垣英明(加速器), 堀 順一(核データ)

村田 勲(放射線工学), 多田健一(炉物理)

開催の前週の予測では、強い台風 5 号が 8 月 7 日 (月) 頃に対馬海峡付近を通過する予報になっていて、韓国行きの航空便の欠航が懸念された。しかし、最終的に同台風は九州南部をかすめて四国南部に上陸し、航空便に多少の遅れが生じる程度で済んだ。台風の影響により、それまでの異常に暑い猛暑日が途絶え、サマースクールの開催中はおおむね曇り・小雨の天気であり、比較的過ごしやすかった。

8 月 7 日 (月) に歓迎夕食会が KAIST (韓国科学技術院) の Faculty Club で行われた。本サマースクールは、KAERI (韓国原子力研究所) 核データセンターの Tae-Yung SONG 氏がとりまとめを担当した。同氏によると、今回の日程は、KAIST の学生寮の使用の都合で決まり、使用可能だった最後の週に設定できたということだった。

8 日 (火) から講義が始まった。サマースクールの会場は、KAIST の原子核量子工学専攻の講義室だった。まず、開校式として韓国放射線産業協会長で KAIST の Gyuseong CHO 教授の挨拶が行われ、合同サマースクールの開催の歴史が紹介された。大田広域市では、第 3 回に続き、2 度目の開催になる。それに引き続いて、長寿命放射性廃棄物の核変換の立場からの円形加速器の特長、日本の核データ活動の紹介の講義がなされた。午後は、最初の 2 時間に参加学生の研究内容の口頭発表 (各自 5 分) がなされ、引き続いてそれに関する 1 時間のポスター発表が行われた。これには日韓合わせて 17 件の発表があった。

9 日 (水) は、午前中に、直接イオン化と間接イオン化の観点からまとめたシリコン検出器、電子線形加速器と X 線自由電子レーザーを利用した新しいレーザーコンプトン散乱装置、レーザーコンプトン散乱の核変換への応用可能性について、講義がなされた。午後は、水中移動式ガンマ線サーベイメータを使った福島周辺のセシウム濃度、基礎的な炉物理計算を踏まえた核変換のための中性子過不足の定量化の講義がなされた。

夜には日韓の学生による夕食・交歓会が行われた。英語主体ではあるが、覚えたての相手国の言葉を交えてたどたどしい話をしたり、一方で、福島の話がでて国際的な関心事であることを認識したり有意義なひと時だったようだ。最後のお開きの後も、互いに感謝の言葉を掛け合い、別れを惜しんでいた様子だ。

10 日 (木) は、KOMAC の加速器サマースクール色のある講義配置となっていた。最初に、古典力学と古典電磁気学を基礎にした核融合トカマクの解説、100MeV 陽子線形加速器 KOMAC、17MeV の超伝導線形加速器によるパルス中性子源、の講義がなされた。午後に、IBS (基礎科学研究院) による RAON (オンライン実験用稀同位体複合加速器) プロジェクトについて、その加速器システム、オンラインイオン分離システム、高アクセプタンス反跳スペクトロメータについて、講義が行われた。最後に閉校式が行われ、参加学生に参加証が授与された。

今度のプログラムでは、従来の場合と違って、見学会や実習・演習が入っていなかったことが残念であった。KAERI と KAIST の都合により割愛されたものと思われる。会場となった KAIST の原子核量子工学専攻建屋の廊下に、各研究室のスタッフの写真や学生数の掲示されていた。それぞれの研究室には、博士課程学生が平均 5~6 名 (人気の研究室では約 10 名) 在籍しており、韓国国内での KAIST の高いアクティビティがうかがわれた。しかしながら、8 日の日韓学生の口頭・ポスター発表では、日本側学生による発表の内容

のレベルが高い印象であった。

今回から、日韓原子力学生・若手研究者交流事業の規定が変更されて、韓国側だけの開催の年度であって日本側の開催がない場合には、韓国に渡航する学生の学会から旅費補助（2万円）が可能になった。このため、近年の韓国側開催にしては日本側参加学生が多くて10名に達した。

参加学生人数

韓国側 20名、日本側 10名（部会内訳:加速器・ビーム科学2名、核データ3名、放射線工学3名、炉物理2名）

炉物理部会参加者

福井大学附属国際原子力工学研究所 Van Rooijen Willem Frederik Geert 准教授（講師）
 東京工業大学大学院 修士課程1年 福田航大 君
 東京工業大学大学院 修士課程1年 村本武司 君

Program of the 9th Korea-Japan Joint Summer School on Accelerator and Beam Science, Nuclear Data, Radiation Engineering and Reactor Physics
 (The 16th Accelerator Summer School of KOMAC)

Date	Time	Topics	Lecturer
August 7 (Mon)	15:00~18:00	Registration	
	18:00~20:00	Reception	
August 8 (Tue)	09:20~09:30	Opening address	Gyuseong CHO (President of KSRI)
	09:30~12:30	Accelerator Based Nuclear Transmutation	Yoshiharu MORI (Kyoto U.)
		Nuclear Data Activities in Japan	Kenji ISHIBASHI (Kyushu U.)
	12:30~14:00	Lunch break	
	14:00~17:00	Student's Poster Session	
August 9 (Wed)	09:30~12:30	Silicon-based Radiation Detector Technology	Gyuseong CHO (KAIST)
		Application of Laser-Compton Scattering Photons to Nuclear Transmutations	Yonghee KIM (KAIST)
		Accelerators for Laser Compton Scattering (LCS) Based Research	Yujong KIM (KAERI)
	12:30~14:00	Lunch break	
	14:00~17:00	Measurement of Radioactive Cesium Distribution in Tohoku Coastal Waters	Seiki OHNISHI (NMRI)
Fundamentals of Nuclear Transmutation and Neutron Economy		Willem Frederik Geert VAN ROOIJEN (U. of Fukui)	
August 10 (Thu)	09:30~12:30	Fusion Energy – Concept of Tokamak	Young-chul GHIM (KAIST)
		Introduction to Proton Linear Accelerator	Seunghyun LEE

			(KAERI)
		Measurement of Neutron Nuclear Data Using Electron Accelerator	Sung-Chul YANG (KAERI)
	12:30~14:00	Lunch break	
	14:00~17:00	Special Session: Introduction to RAON (Rare isotope Accelerator complex for <u>ON</u> -line experiments) <ul style="list-style-type: none"> • RAON Accelerator Systems • ISOL System Introduction • KOBRA Low Energy Spectrometer 	Hoechun JUNG (IBS) Hironobu ISHIYAMA (IBS) Kyoungho TSHOO (IBS)
	17:00~17:30	Closing Ceremony	

以上

【概要】第 49 回炉物理夏期セミナー、若手研究会報告

第 49 回炉物理夏期セミナーは、2017 年 8 月 1 日（火）～3 日（木）の日程で大阪府箕面市にて開催された。参加者は 51 名（うち講師 8 名、学生 15 名）。テーマは「炉心設計とその解析手法の基礎を学ぶ」とし、設計に用いられる解析手法の理論と変遷、炉心設計での実施内容、核設計と他分野との関係などについて専門家から講演を頂いた。また、参加者それぞれの考えを共有することで炉物理の意義について再認識することを期待し、4～5 名のグループに分かれ、炉物理の研究開発におけるミッションを議論するワークショップを行った。最終日にはグループ毎に集約した意見を事務局より発表し、全体で議論を行った。セミナー後のアンケートでは、炉心設計の基礎を幅広く学ぶことができ研究・業務にいかせることができる、ワークショップで他の参加者との意見交換ができたことが有意義だった、との意見があった。また、宿泊場所が快適であったとの意見がある一方で、宿泊費が高いという参加者もいた。今後のセミナーで取り上げてもらいたいテーマとしては、炉物理に関する実験、廃止措置への応用、マルチフィジックスなど他分野との応用、核データなどが挙げられた。

最後に、講義をお引き受け頂いた講師の先生方、協賛会社の皆様、学会事務局の皆様、そのほか開催にあたりご尽力いただいた皆様に深く御礼申し上げます。

大阪大学 北田 孝典、竹田 敏

【セミナー概要】

1. 会期： 2017 年 8 月 1 日（火）～8 月 3 日（木）
2. 会場： 箕面観光ホテル（大阪府箕面市温泉町 1 番 1 号）
3. 幹事機関： 大阪大学
4. テーマ： 炉心設計とその解析手法の基礎を学ぶ
5. プログラム：
 - ◆ 8 月 1 日（火）
 - 講義 1 計算機の発展と炉心計算で用いられる手法の変遷
原子力エンジニアリング 巽 雅洋
 - 講義 2 格子計算の基礎
三菱重工業 小池 啓基
 - 講義 3 BWR 炉心計算における 2 段階手法の高度化について
GNF-J 東條 匡志
 - ◆ 8 月 2 日（水）
 - 講義 4 評価済み核データライブラリの処理
日本原子力研究開発機構 多田 健一
 - 講義 5 空間依存動特性方程式の数値解法
原子力エンジニアリング 辻田 浩介
 - 講義 6 PWR の核設計とその考え方
三菱重工業 桐村 一生
 - 講義 7 BWR の炉心設計とその考え方
日立製作所 光安 岳
 - ◆ 8 月 3 日（木）
 - 講義 8 炉心設計で用いられる手法の 1F 廃炉技術開発への応用
日本原子力研究開発機構 奥村 啓介

ワークショップの主な意見：

- ・ 検討範囲を広げるべき内容、連携すべき分野、さらに深化させるべき内容
 - マルチフィジックス(炉物理、熱流動、材料、水化学、燃料挙動)への拡張
 - 計算科学技術の活用
 - 解析手法の高度化による信頼性・説明性の向上
 - 実験・実験データの拡充
 - 医療分野への応用
 - 放射化計算・遮蔽計算など、廃炉への支援
 - 解析コードの国産化
 - 規格・基準策定への貢献
- ・ 炉物理分野に期待する役割
 - 原子力発電・核燃料・放射性物質の概要についての一般に対する説明
 - 安全性と経済性が大きく向上される新型炉の開発

閉校式

【若手研究会】

学生・若手WG担当幹事 近畿大学 左近 敦士, MHI 竹本 友樹

日時：8月2日（水）20:30～10:00 （夏期セミナー2日目）

内容：若手研究者の研究発表

3名の参加者から、自身の研究に関する発表があった。各発表のタイトルと発表者は以下の通り。

- ① 未臨界実験データを用いたバイアス因子法

名古屋大学大学院 木村俊貴

- ② FP領域核種における評価済み熱中性子捕獲断面積データの実験的検証

東京工業大学大学院 寺島敦仁

- ③ 核分裂収率に着目した核分裂生成物の発熱量低減に関する研究

大阪大学大学院 山口光

以上

平成 29 年 9 月 14 日

Reactor Physics Asia 2017 開催報告

部会長 小原 徹

Reactor Physics Asia(RPHA)は日中韓の炉物理部会の覚書により 2 年毎に各国持ち回りで開催されており第 1 回は 2015 年に韓国主催により韓国済州島で開催された。第 2 回の会議が中国主催で 2017 年 8 月 24 日～25 日の日程で中国成都の Chengdu Minya Hotel で開催された。日本の炉物理部会からは、小原（部会長、東工大）、千葉准教授（北大）他 15 名が参加した。

プレナリートークでは、小原が動特性解析手法に関する講演を行い、講演冒頭に今回の開催にあたり中国側の尽力に感謝する旨を日本の炉物理部会を代表して行った。

クロージングでは、京大炉の山中氏より次回会議が 2019 年 12 月 2 日（月）～3 日（火）に日本主催により大阪で開催されることが報告された。各国の学生の論文発表件数は下記のとおりであった。会議参加者は若手が中心で、各発表に対し活発な質疑が行われた。

学生の国別論文発表件数：

（日本：10）

- ・京大炉：1
- ・北大：3
- ・名大：2
- ・阪大：2
- ・東北大：1
- ・東工大：1

（中国：26）

- ・清華大学：9
- ・North China Electric Power Univ:3
- ・NPIC：2
- ・NuStar：1
- ・Sun Yat-sen Univ:1
- ・Xi'an Jiaotong Univ:9
- ・Harbin institute Tech:1

(韓国 : 28)

- ・ KAIST : 7
- ・ Kyung Hee Univ : 2
- ・ 釜山国立大 : 2
- ・ SNU : 3
- ・ UNIST : 14

以上

第 5 回「炉物理専門研究会」のご案内

日時：2017 年 11 月 29 日（水）および 11 月 30 日（木）
場所：京都大学原子炉実験所 事務棟大会議室
参加費：11/29 の懇親会費 1,500 円、11/30 の昼食代 500 円

2017 年 11 月 29 日（水）

12:30 受付
13:00 開会
13:05 - 14:05 **Session I** : Special session
14:15 - 15:45 **Session II** : 核データおよび不確かさ解析
16:00 - 17:30 **Session III** : 核計算
17:45 - 20:00 懇親会

2017 年 11 月 30 日（木）

9:00 - 10:30 **Session IV** : 炉物理一般 I
10:45 - 12:15 **Session V** : 炉物理一般 II
12:15 閉会
13:15 - 14:15 **Session VI** : チュートリアル

（補足事項）

- 講演者については旅費を支給します。ただし、学部学生および民間企業の方々には旅費が支給できませんのでご承知置きください。
- Special session およびチュートリアルでは発表 40 分および質疑応答 20 分、Sessions II～V では発表 15 分および質疑応答 15 分です。
- 懇親会費および昼食代についての領収書は発行いたしかねますのでご了承ください。

2017 年 9 月 14 日（木）
京都大学原子炉実験所
卜 哲浩